

建設防災 ボランティアニュース 第71号

目次

- ・ 建設局初動対応訓練
- ・ 砂防講習会
- ・ 建設局長による感謝の会
- ・ 現場見学会・西建班
- ・ 新会員の挨拶

建設局初動対応訓練

2月1日(水)午前7時から12時まで、「建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図る。」「震災対策の手引きの改訂内容を踏まえて実施する。」を目的として建設局初動対応訓練が実施されました。局からの協力依頼に基づき、各班から昨年比6増の85名の会員が参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	8名	西建班	8(5)名
二建班	7名	南東建班	8(4)名
三建班	6名	南西建班	9名
四建班	10名	北南建班	4名
五建班	3名	北北建班	5名
六建班	7名	東部公園班	5(1)名
		西部公園班	5名
合 計	85(10)名		

()内：参集訓練参加者内書

訓練は「東京湾北部を震源とする大規模地震(マグニチュード 7.3、震度 6 以上)が午前7時に発生し、都内で広域的な被害が発生している。」との想定で行われ、今回のポイントは「訓練内容の簡素化」、「事務局の事前準備を最小限にし、実践的な訓練にする。」、「情報集約や連絡方法の確実性を高める。」の3点でした。

天候にも恵まれ、会員も事務所の指示に基づき様々な部署で実践的な訓練を経験できました。事務所との調整、会員への連絡等にご尽力頂いたリーダー、参加された会員、そしてご指導頂いた各事務所の皆様に心より感謝いたします。

担当理事 久保田元久

北北建班の活動状況は？

2月1日、北北建の初動対応訓練に、北北建班の精鋭5名が参加しました。写真等を中心に、活動状況を報告します。



いつの間にか、訓練本部の直近にある工事第一課の打合せコーナーが、北北建班の集合場所等として占有するようになりました。ここにいつもお茶やペットボトル(お水)が届けられます。左から、藤井リーダー、野村、林(銑)、吉原、飯塚サブリーダーの各氏

右手奥が、本部長席で、左手に我々が配属される応急対策班があります。ちょうど引継ぎ時間のため、“熱気”と“やる気”がムンムンしています。



応急対策班長からの出動指示。例年、5～6名の参加者のため、道路の現場2班、河川の現場1班に分かれることが多いです。



出動現場を地図上にて指さし確認します。



いざ！出動。河川の護岸崩落は、事務所の近くを流れる残堀川で例年発生します。近いといっても自転車による出動ですが、国分寺崖線の上りは結構堪えます。

道路啓開現場・河川護岸崩落現場。車道センターのカラーコーンなど、本格的な訓練です。



現場の状況を報告後、帰還指示の督促をしています。

恒例となった“訓練を終えて”。みな充実感が溢れています。



年々おいしくなる“安心米”です。どれだけおいしくなっているか楽しみです。頂きま〜す！

北北建班 野村隆

「習うより慣れろ！！」・・・三建班

三建では、本部長大八木所長、副本部長片岡副所長及び圓地補修課長のもとで、実施要領に基づき、安否確認訓練、職員参集訓練、本部開設・情報連絡訓練（本部開設連絡・参集経路確認）、情報連絡訓練（WEB会議システム）、点検出動訓練、情報連絡訓練（被害状況報告・図面明示）、情報連絡訓練（事務所本部⇄道路啓開協力業者）、交代要員引継訓練、支援班訓練（判別名簿の作成、炊き出し訓練等）、情報連絡訓練

（訓練完了報告）、訓練の検証が行われました。

参加した協会員は、井出、加藤、篠原、川口、中田、望月の6名で、作戦班（道路担当）においての情報連絡訓練（被害状況報告・図面表示）や応急対策班においての点検出動訓練を職員と共にを行いました。



天気は上々でしたが、冷たい風が強い中で、私たちは応急対策班で作戦班の指示に基づき、点検簿、レスナビ機能付き携帯電話、筆記用具、被害状況報告書等を携行して出動し、環状7号線高円寺橋付近の現場点検を行うとともに、レスナビ機能付き携帯電話により本部へ被害状況及び応急復旧状況を送信し、報告完了後、本部に電話で事務所に帰る旨を伝えて帰所しました。

最後に大八木本部長の訓練に対する評価と局長からの訓示があり訓練が終了しました。

本部長の評価は、「それぞれの役割に応じてよくやれていた。今後とも訓練を重ねていき、実際に災害が起こったときにインフラの復旧に迅速に対応していけるように準備していきましょう。」

局長の訓示は、「昨年は大阪や北海道で地震が頻発しており、訓練の想定がいつ現実のものになっても不思議ではない。危機感をもって繰り返し訓練にあたり、経験を積むこと。要は「習うより慣れろ」ということ。災害というのは得てして想定外のことがたくさん起こるものであり、訓練を通じて経験を蓄積することで、想定外の事態にも応用を利かせられるようになる。各所とも、色々な反省点があったと思うが、今後の訓練や日頃の災害への備えに活かしてもらいたい。」でした。



地震をはじめとした様々な災害がいつ起きるかわからない状況の中で、まさに局長の訓示の通りだと思います。

今後とも、建設防災ボランティア協会会員として肝に銘じ、初動対応訓練等に積極的に協力していきたいと考えています。

三建班 望月 裕

外国人観光客への対応は？

… 西部公園班

前夜から心配された雪も降らず、晴れ渡った空と雪を抱いた富士山が遠望できる絶好のコンディション。西部公園班は総勢7名のメンバーのうち5人が集結。出席率7割という好成績。

当日のスケジュールなどの資料も前々日までには各自に届き、当日の準備おさおさ怠りなし。

当日は10時集合のところほぼ全員が30分前には到着。所長室へ顔出しして、近況を聞いたりしているうちに10時の集合時間。

応急対策班のリーダーの点呼が終わると、園内点検の指示が入り、MC無線と点検表を持ってA・Bの2班に分かれ出発。

園内に入ると外国人の観光客が目立つ。アジア系の人だけでなく、ヨーロッパ系の人も交えたツアーの一行らしい。彼等の協で本部と無線による交信を行ったが、彼等の関心は皆無であった。防災ボランティアのユニフォームはどこかの建設現場の服装みたいなので、「工事関係者がいるわい」とぐらいにしか思われなかったのであろう。

このとき感じたのは、公園に限らず災害時には

外国人の観光客も多数いるはずだから、言葉の分からない彼等にいかに避難するか、どこに行けば安全かを教えることもボランティアの仕事として重要になってくるのではないかということ。このことは今後の検討課題として認識し、幹事等によく話し合ってもらいたい。

訓練自体はボランティアの方が慣れていて、現役組の方が段取りその他でスムーズにいていないようにも思えた。

点検も無事終了し、帰所後報告が終わるまで待機。その後所長を交えて集合写真を撮り散会。普段なら所長を交えて反省会をし非常食の試食などをして和やかに終わるところなのだが、当日は造園職OBの集まりが日比谷であるため、大急ぎで撤収させていただいた。



西部公園班 伊藤精美

課題も判明… 南東建班

○実施に向けての事前説明会

1月30日 南東建では局初動対応訓練にあたり、参加する職員、防災ボランティアを対象に事前説明会が開催され、多くの職員に加えて防災ボランティアも5名が参加しました。説明会後には帰路、有志による団結式がいつもの場所で行われました。

○初動対応訓練当日の全体概況

2月1日は、前日未明から降り出した雪が心配されましたが、当日の朝には積雪もなくやや冷え込んでいるものの晴天の中、職員39名、防災ボランティア8名（以下敬称略。原田、丸岡、杉本、織

田、矢内、若尾、佐々木、柴田)の計47名が参加して実施されました。

南東建では、午前7時30分に自宅を出発する参加者(以下、「早出グループ」という。)と通常出勤する参加者(以下、「通常グループ」という。)との二つのグループで実施されました。

具体的には、早出グループは勝呂本部長、原田(謙)副本部長のもと、作戦班(①道路担当②河川担当③総務担当)、支援班、応急対策班(A、B、Cの3班)の各班に職員が各々配置され、防災ボランティアも作戦班道路担当(柴田)、同班河川担当(杉本)及び応急対策班(原田、矢内)が配置されました。

また、通常グループは小松本部長、福永副本部長のもと、早出グループと同様に職員が各々配置され、防災ボランティアも作戦班道路担当(柴田)、同班河川担当(織田、杉本)、同班総務担当(丸岡、矢内)、支援班(佐々木)、応急対策班(若尾)という配置で実施されました。



今年の訓練は、例年と異なり所の本部会場が4階から2階会議室に変更となり、面積的に多少余裕があり、参加者も動きやすい感じを受けました。一方、参加者が例年より若干少ないとのこともあり、各班の立ち上げ時には、各班相互に応援をするなど、融通を利かせた運用が図られていました。なお、事務局(検証兼務)は下鳥、中曽根、菌部、佐藤(誠)の4氏が厳しい目で検証等を行っていました。



○当日の活動状況(概要)

早出グループは、概ね午前8時過ぎから職員やボランティアが三々五々参集し8時30分頃には、ほぼ全員が参集しました。登庁職員や防災ボランティアの皆様は各班に分かれ、勝呂本部長の号令のもと、班の事務遂行のため、WEBシステムやレスキューナビゲーションシステム(以下、「レスナビ」という。)の立ち上げ作業や必要な備品、事務用品の取り揃えなど設営準備に尽力していました。

午前9時に、作戦班道路担当に「被害1」{八王子町田線(町田街道)町田市で電柱倒壊、通行不可。}が警察から入りました。早速、作戦班道路担当リーダーから応急対策班リーダーに点検出動指示が出され、所要の携行備品も持ち、応急対策班 A 班が現場に向かいました。9時20分頃には応急対策班 A 班から、レスナビによる報告がありました。しかし、レスナビの受信状況がすぐれず、再度、報告を要請し、ようやく現地状況が把握できました。

また、これより先の9時過ぎには、作戦班道路担当に道路啓開業者及び道路清掃業者から分担区間における点検状況が情報連絡 FAX により続々と入ってきました。こうした被害状況や対応については、必要の都度、本部長及び局本部にも報告連絡を行いました。

次いで、9時25分頃、作戦班河川担当リーダーに「被害2」{町田市原町田5丁目、芹が谷公園内で斜面の一部崩壊、地滑り発生のおそれがある。}との被害情報が警察から入りました。早速、河川担当リーダーから応急対策班 B 班あてに出動指示があり、同 B 班が所要の携行備品を持ち現地向かいました。9時40分頃、応急対策班 B 班から被害状況報告が MCA 無線や携帯電話を用いて報告されました。

また、相前後して9時30分頃には、作戦班道路担当リーダーあてに「被害3」{町田市旭町3丁目(鎌倉街道)で被害発生。}との情報が入り、応急対策班 C 班に出動指示がありました。同 C 班は所要の携行備品を持ち、現場点検に向かいました。

た。9時45分頃、同 C 班からレスナビによる現地の被害状況報告がされました。

次いで、10時頃、作戦班河川担当サブリーダーあて、「被害4」{大栗川(多摩市東寺方右岸)にて電柱倒壊。}が警察から連絡があり、早速、河川担当サブリーダーは、河川担当リーダーに報告するとともに局本部に提示報告等必要な対応を行いました。

10時15分過ぎに、早出グループから通常グループへと引継ぎが実施されました。引き継ぎ早々、小松本部長から各種の被害状況や現在の対応状況について、各班のリーダーに報告、連絡、相談等を適宜するよう指示があり各班リーダーから速やかに、現況報告がなされました。

10時30分頃、作戦班道路担当リーダーあて、「被害5」{町田市木曽東4丁目(町田街道)で沿道建築物の倒壊により通行不可。}が警察から入り、道路担当リーダーは応急対策班 D 班に出動指示を行いました。同 D 班は所要の携行備品を持ち、自転車で現地に向かいました。

また、同じ頃に、作戦班河川担当リーダーから「被害6」{自主点検出動}について、応急対策班 E 班あて出動指示がされました。同 E 班は所要の携行備品を持ち、現地に向かいました。10時45分、応急対策班 E 班から、現地の点検結果について、MCA 無線、電話により所本部(河川担当)あて報告がされました。

10時50分には、応急対策班 D 班から道路担当あてレスナビにより被害報告がされました。放置車両もあることから車両の移動等について関係業者等と連絡調整を行いました。

11時には、アルファ米の炊き出し訓練を行っていた支援班から、炊き出し米と水を3階会議室に適宜、取りいくよう連絡指示がされました。

11時30分には、WEB 会議システムを用いた情報連絡訓練として本庁と各所とを結んで会議が持たれ、西倉都技監から各所所長(副所長)あて、講評があり「本日は90名の防災ボランティアを含む約1千人が参加した訓練となった。WEB システ

ムやレスナビ等の立ち上げに時間かかるなどいくつかの課題も判明、今後もこうした訓練通じて、いつくるかわからない災害に備える必要がある」等述べられました。

その後、現地派遣された応急対策班 D 班の無事の帰所を確認後、小松所長から「本日の訓練で都技監講評にもあったようにいくつかの課題が判明した。所においても、報・連・相が良くなかった。パソコンシステムやレスナビ作動があまりうまくいかなかった。今後、これらを改善し、災害に備えていく必要がある。」、また、福永副所長から「防災ボランティアの皆様のご協力もいただき、訓練が円滑にできてよかった。今後もよろしくお願いする。」旨ご講評挨拶をいただき、本日の訓練が無事終了しました。

終了後、小松所長、福永副所長を囲んで参加した防災ボランティア一同で、記念撮影するとともに、アルファ米の炊き出し等をいただき帰路につきました。



駅への帰路には、いつものお店で有志による昼食懇親会を盛に行い、次回への英気を養い、当日の全予定を滞りなく終えました。末筆で恐縮ですが、ご参加された小松所長はじめ局(所)の関係職員の皆様並びに防災ボランティアの皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次



・・・各班の活動報告写真・・・

一建班



五建班



二建班



四建班



六建班





北南建班



西建班



東部公園班



南西建班



2018の「災」は防災の「災」

砂防講習会が開催されました！

平成30年12月17日(月)、道路整備保全公社会議室で砂防講習会が開かれました。会員40名の参加がありました。河川部からは、村井河川部長、西園寺防災課長、大久保土砂災害対策担当課長、上村計画調査担当課長代理、泊砂防担当課長代理、亀岡防災調整担当課長代理の6名の方々にご出席いただきました。

冒頭杉浦会長から、「平成30年の全国の土砂災害の発生状況をみると、近年の気象状況は明らかに以前とは違っている。これに対する河川部の新たな取り組みや知見をご教示願いたい。」との挨拶に、村井河川部長から、「平成30年度は都においては土砂災害の発生はゼロ。ハード対策の着実な進捗に加え、都内の約 15,000 箇所土砂災害危険箇所のうち、約 12,000 箇所の土砂災害警戒区域の指定業務が完了し、残る 2,000 箇所についても新年度内に完了させる。」との力強いご挨拶をいただきました。

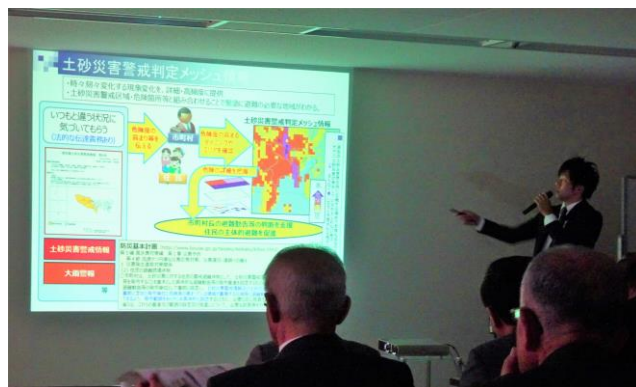


西園寺防災課長から「砂防事業関係予算等について」と題し、近年の土砂災害対策のあらましについて説明がありました。平成30年、全国で発生した土砂災害の甚大な被害についての話、都においても平成30年の災害発生はなかったものの、平成25年の大島の大金沢の大規模災害を初め、平成29年までは毎年土砂災害が発生していること。このため、①施設の充実と強化②防災意識の向上③自助努力への支援の3本柱からなる総合的な土砂災害対策を鋭意進めているとのことでした。

そのあと、泊さんから「土砂災害対策について」、

上村さんから「防災意識向上のための取組について」、気象庁から人事交流で防災課に配属の亀岡さんから極めて専門的な見地からの「気象情報・土砂災害警戒情報の活用について」講演をいただきました。

泊さんからは、平成30年災害の詳しい説明と深層崩壊という比較的新しい定義づけの土砂災害形態の話があり、土砂災害の恐ろしさを再認識しました。上村さんから、最近始めた土砂災害に関する「出前講座」のお話があり、ソフト対策の一環として極めて有効な取組みであると感じました。亀岡さんのお話は、難しい土砂災害の警戒情報の発表基準などをわかりやすく解説頂いたほか、防災気象情報の流れを整理してお話頂き、大変わかりやすかったです。



最後に出前講座の詳細について、質問したところ、防災ボランティアの力も貸してほしいとの回答が有り、あたかも事前打ち合わせがあったかのように皆様から指摘されましたが、誓ってそのようなことはなかったと弁明させていただきます。

平成30年の漢字は「災」という発表があり驚かされました。災害の「災」ではありますが、防災の「災」とも言えます。新しい年号を迎えるに当たり、我々ボランティアも少しでも東京都の「防災」のお役にたてるよう心を新たにしていきたいと思います。

有意義なお話をいただいた河川部の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

六建班 長島修一



協会と手を携えて

・建設局長による感謝の会・

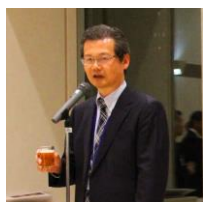
平成 31 年 1 月 18 日午後 6 時から都庁第二庁舎 4 階において、会員 74 名と建設局幹部の皆様 29 名、計 103 名の出席のもと、「建設局長による感謝の会」が開かれました。



会は、萩原総務課長の司会で始まり、まず西倉都技監から、ボランティア協会の日頃の様々な活動について感謝する旨のお話に続き、環状2号線の開通を始めとする、各部の様々な事業について、非常に面白かつ有意義なお話を戴きました。さらに「建設局のこのような協会員と現役職員との繋がりはありがたいことであり、他局の局長からも羨ましがられている。今日は本庁の全部長と事務所長が顔をそろえており、様々な意見交換をさせていただきたい。」と述べられました。



続いて杉浦会長からは、本日の御礼と、活動開始から21年目になり様々な活動をしているが活動の本丸は防災であり、1年に1回のこの会は活動の糧になるとともに、退職後の私どもの姿を見ていただくことも、連携・協働のための有意義な機会となります、との挨拶がありました。



三浦道路監のご発声による乾杯の後、差し入れのお酒の紹介とともに懇談に入りました。お酒が進むにつれ会場は大いに盛り上がり、最後に途中から駆け付けられた片山次長から中締めのご挨拶を頂いてお開きとなりま



した。多くの会員にご参加いただき、誠にありがとうございました。



担当理事 林幹生

ご出席頂いた方々の中から、今年の干支である「亥」年生まれの御三方に、会の感想も含め、今年の思い、抱負などを書いていただきました。

亥年男の「ぶらぶら現場歩き」



「感謝の会」の翌週の月曜日（1月21日）、話題に上っていた、環状第2号線（晴海～汐留区間1.8km）を歩きました。地下鉄勝どき駅から清澄通り（環3）を南西に、環2通りを右折、「勝どき陸橋」のボリュームある橋体の下を隅田川へ、築地大橋に到着しました。下流側歩道が通行可で、アクセスは階段、スロープがあります。

橋上、天気は快晴、風も弱く最高の気分です。海上保安庁の巡視船が停泊しており、浜離宮恩賜庭園から水辺ラインの水上バスが、汽笛一斉出航するところです。遠く高層ビル群に交じって東京タワーが、紅白の色鮮やかに存在を示しています。上流側は見慣れた勝鬨橋とお世話になっている「橋の資料館」を確認しました。

海岸通り（放18）までは、片側1車線ずつ、歩道は浜離宮側で、交通量は多くなく、築地川に沿って楽しく歩けました。暫定道路ながらも植栽ポットが設置され、歩行者への配慮が窺えます。終点、庭園入口の案内看板には、臘梅、白梅、紅梅の開花情報が有りましたが、寄らずに新橋駅に向かいました。

六建班 浅田光昭

バトンを繋ぐ



1月18日に開催された「感謝の会」の中で、西倉都技監のご挨拶がありました。道路、河川、公園等の整備の近況を紹介されたのち、これらは「局職員がバトンを繋ぐように努力を重ねてきた成果だ」とのお話は、心に残りました。

●タペストリーの縦糸・横糸

各種の事業は一般に、計画段階から、測量、用地取得を経て設計、工事そして管理へと進んでいきます。各段階の成果を次の段階へと引き継いでいくことを「縦糸」に例えれば、段階内での用地担当同士、工事担当同士などの引き継ぎは「横糸」に例えられると思います。これらの糸は、庶務や技術管理にも支えられて、よりしっかりとしたものとなっています。

局の事業は、「縦・横の糸」が織り成す「壮大なタペストリー」を作り上げ、さらに、それを良好な状態のまま、守っていくかのようです。南西建にいたときの用地担当職員の次の言葉は、とても印象的でした。

「技術職員は、たしかに現場で橋をかけているが、我々は住民の心の中に橋を架けている」と。一つの事業に、事務、技術の職員が一丸となって取り組んでいるんだと認識されました。私自身、「縦・横の糸」になれたことに達成感と誇りをもっています。

●防災ボランティア

初動対応訓練、道路施設点検、河川愛護月間行事などに参加しています。それぞれの機会に、現役の皆さんへ、つたない経験を話すこともあります。

ボランティア協会が、毎年主催している救急救命や砂防の講習会、現場見学会は大変、参考になり活動の役に立っています。今春、環七地下広域調節池や「オリパラ」の葛西スラローム会場・海の森水上競技場等の見学会が予定されています

が、これらの現場をまとめて見学できることは、一都民としても大変貴重な機会です。

各種行事、見学会等への参加を通して、「建設防災ボランティア」としていっそう、局事業のお役に立てればと思っています

「馬齢を重ねて年男」と我が家では揶揄されていますが、「糸」としての誇りは持ち続けています。そして、新しいタペストリーづくりを見守って行きたいと思っています。

五建班 阿部 博

救急法を学び直す



今年の「東京都技監による感謝の会」において、西倉都技監に引き続き、当協会の杉浦会長は挨拶の中で、「この感謝の会は、村尾建設局長の時から始まり今回で八回目になった」と述べました。継続は力なりといいますが、今後、協会の活動が末広がり拓けていく「八」とは、縁起の良い数字の年だと思いながら、あきる野の地酒「喜正」を堪能しました。

平成31(2019)年の干支(えと)は、馴染みの薄い十干(じっかん)が6番目の己(つちのと)、年賀状などによく使われる十二支(じゅうにし)が、最後の12番目にあたり、古くから神仏のお使いで無病息災の象徴とされた亥(い)なので、己亥(つちのとい)となります。

ちなみに前回、60年前の己亥はどのような年かといえば、まさに日本が発展真ただ中の高度経済成長期の昭和34(1959)年です。この年を代表する大きな出来事は、皇太子殿下と美智子さまのご結婚されたことでした。

ところで、いくつもの大陸と海洋プレートのせめぎ合い、隆起・沈下や噴火などによって誕生した日本列島には、たびたび大地震が発生している。歴史を繙くと亥の年は、ざっとみても次の様な災害にみまわれ、

- 1611 年 慶長三陸地震
- 1707 年 宝永大地震、富士山宝永噴火
- 1923 年 関東大震災
- 1947 年 カスリーン台風
- 1959 年 伊勢湾台風
- 1971 年 十勝沖地震
- 1983 年 日本海中部地震、三宅島噴火
- 1995 年 阪神淡路大震災
- 2007 年 能登半島地震、新潟県中越沖地震
などがあげられる。

昨年、一躍注目を集めたスーパーボランティアの尾畠さんは、被災者へ「お怪我はありませんでしたか」「これからボランティアを始めます」と声をかけるそうです。

日頃から防災に対しより一層備えるため、平常時から急病、事故や災害時を想定し、負傷者の救助、医者や救急隊へつなぐ救急法。そのためにも災害時に自分自身を守り、急病をはじめ、負傷の手当や搬送法などの知識と技術を習得し、熟知しておくことも必要ではないだろうか。

かつて学生時代のワンダーフォゲールでの部活、山岳会やボーイスカウト活動で身につけた救急法は、都庁退職のお祝いの卒業山行で下山中の事故により、ケガの消毒と止血のため三角巾による応急手当をして以来、12 年を経て全く錆びついてしまった。

ある意味、役に立たない方がよい救急法であるが、この節目を機会に、再び学び直すのによいタイミングと思っている。

南西建班 中込 孝仁

現場見学&意見交換会：西建班

平成 30 年 11 月 7 日(水)西多摩建設事務所では、防災ボランティア協会西建班(以下、西建班)との懇親を図る目的で、現場視察と意見交換会を開催していただきました。

午後 2 時からマイクロバスで、工事中の梅ヶ谷トンネル坑口の現場と、日原街道の燕岩洞門完

成現場を視察しました。

梅ヶ谷トンネル(仮称)は、一般都道大久野青梅線(第 238 号)の日之出町大久野地内と青梅市梅郷一丁目地内を結ぶ全長 1,333m のトンネルで、上下二車線の車道と幅 2.5m の歩道が片側に設置されます。



坑口予定箇所前にて

洞門の上にて



一般都道日原鍾乳洞線(第 204 号)は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響による落石により同年 3 月 23 日から日原鍾乳洞先を通行止めしていました。

西建では、平成 26 年 10 月から「日原燕岩洞門」の道路災害防除工事(洞門工事)や関連工事を行い、10 月 1 日に 7 年半ぶりに通行止めを解除し、交通開放しました。

現場視察から戻り、西建班からは活動状況や西建班会員の活動への参加状況などについての説明と、西建からは事業概要等の説明を受け。意見交換を行いました。

その後、場所を移して懇親会を開催し、親睦を深めることができました。

西建班 山縣正彦



新会員の挨拶

先月号で紹介した新会員の皆様に、自己紹介をお願いしました。早々にお二方から原稿をいただきました。ありがとうございます。

東了一さん、



ボランティア協会様には、現役時から交流会等深く関わり、現在も公社にて隅田川著名橋等ツアーなど公益事業への展開にご協力いただきありがとうございます。これまで職務関係上、会員への登録を見合わせていましたが、今回、入会させていただきました。

局事業への貢献として、防災・減災への備えを始め、様々な機会を通じて社会・都民への啓蒙活動に取り組んでおられます。私も四建所管となりましたが、防災訓練・施設点検等その一助となるよう取り組んでいきたいと思ひます。

併せて、今後とも、公社での公益事業の充実展開に更なるご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます

杉橋要さん



このたび防災ボランティア協会に入会をさせていただいた杉橋です。

ボランティア協会の皆様には、保全課、北北建、西建、道路整備保全公社在職時時には大変お世話になりました。退職後5年経過し65歳になったこともあり、会員として活動をしたいと思ひ、(年度途中ですが)入会を希望いたしました。

日頃の鍛錬を怠っていた報いか、想像していた以上に体力が衰えていることを痛感している今日この頃ですが、諸先輩の皆様の足手纏いにならぬよう頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

協会からのお知らせ

- ① 来年度の総会は5月9日(木)に、リーダー会
は5月15日(水)に開催されます。ぜひご出席
ください。
- ② 各班の活動報告をお待ちしています。下記
編集担当理事又は林まで連絡願ひます。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協
会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバック
ナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)



編集後記

今年度から、誌面を少しずつ変えていこうと思ひ、原稿、写真などを多めに願ひしたところ、予想以上のご協力をいただき、8頁では間に合わず、急遽12頁になってしまいました。今年度のまとめとしてご容赦下さい。本年度ご協力頂いた皆様に心より感謝します。来年度もほぼ同じメンバーで編集することになると思ひますので、よろしくお願いいたします。

発行人 杉浦 浩
発 行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
(公財)東京都道路整備保全公社内
編 集 佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫

